

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

資料1

基本事項	事業名	近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路											
	会期	平成31年2月2日(土)～平成31年3月24日(日)						開館日数	44日間				
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 ギャラリー1						実施方式	01自主企画・単独方式				
	観覧料	無料						出品点数	29点				
	担当者	学芸:若山 満大 事務:新保 正夫											
	目的	前橋市が収蔵する近藤嘉男の作品を一堂に会した特集形式のコレクション展。近藤が遺した1971年の欧州外遊時の日記を補助線として、郷土の画家の画業を振り返る。絵を描く喜びと生活の苦悩が半ばする「人間」としての近藤嘉男を紹介する。											
	キーワード	近藤嘉男 南城一夫 高畑早苗 ヨーロッパ 海外 旅行 前橋ゆかり 画家											
	他団体との連携 (共催、協力等)	広瀬川美術館											
	参加作家	近藤嘉男			南城一夫			高畑早苗					
	関連イベント	3/18-24 おしゃべりアートデイズ 2/23 学芸員によるギャラリーツアー											
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(A3変形)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		1,000部	-	-	-	-	-						
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	助成金	他					
	予算	-	628,000円	-	179円	-	-	-					
決算見込	-	616,956円	-	134円	-	-	-						
差額	-	-11,044円	-	-	-	-	-						
予算/決算	-	98.2%	-	74.6%	-	-	-						
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要(転記)	近藤の絵画作品だけでなく、彼が遺したスクラップブックや写真も合わせて展示する。さまざまなビジュアルによって、絵画作品が多角的に理解できる鑑賞環境を作る。										
	【②活動】 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み	・広報戦略 ・新たな試み(転記)	1.ひとりのアーティストに注目した特集展示という新しい形式を採用する 2.新たな広報ツールをつくる										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	A3横ポスターの作成(上下をカットして変形)										
	新たな試みの実績	個展形式で見せる所蔵品展は初の試みであった。ギャラリー1全体を使って、画家が歩んだ人生の全体像を見せた(=歴史を体験する装置としての展覧会)。鑑賞者からは理解や共感がしやすい展示だったと好評をいただいた。また、出品作品すべてに簡潔な解説文をつけた。読みやすく、理解が深まったという感想を鑑賞者からいただいた。											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	有料観覧者率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,608	105

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路				
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
		入場・参加者数	3,500 人	4,608 人	131.7 %	
	展覧会満足度	80 %	76.6 %	-3.4 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)	
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項()				
④ 成果	(④成果) 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	近隣住民、50代～60代の中高年齢層			
		成果	概ねねらい通りの客層が来館した。近藤嘉男をすでに知っている(絵画を習っていた)人々や、高畑早苗の作品に関心を持った人々が多く来館した。			
		ねらい1 (転記)	1.郷土の戦後文化への関心を高める			
		成果	概ねねらい通りの結果を得た。来館者からは「こんな作品があるのは知らなかった」「もっと見たい」という声があった。特に近藤嘉男の復員後まもない頃の作品に注目する人が多かった。			
		ねらい2 (転記)	2.芸術作品を通して多様な生き方を知る(生涯学習)			
		成果	緻密に書かれた日記やアクティブな活動歴など、近藤嘉男の知らなかった一面を見られたことに好感の声があった。ただし、近藤と南城/高畑の対比はややハイコンテキストに過ぎたようで、来館者の理解が及ばなかった感がある。			
		ねらい3 (転記)	3.コレクションの活用方法の多様化			
成果	「一人の作家にフォーカスしてコレクションを見せる」という方法が、活用の選択肢に加わった。一作家の作品をまとめた数陳列することで、鑑賞者の理解も一定程度高まったようで、好感をもっていただけだ。					
⑤ 波及効果	個別評価	<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 現時点で記入すべき点がなければ「後日記入」 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. 事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒太田市美術館・博物館の小金沢学芸員によるレビューが上毛新聞に掲載。コレクションの精力的な紹介を評価した(1.6.9) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒近藤嘉男本人から絵を習ったという地域住民が何人来館した。当時の情報や氏の人柄について等、興味深い情報を多数いただいた(1.6.9) 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒市民学芸員養成講座の講師依頼があり、事業を改めてPRする機会となった(1.6.9) 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒地元作家3名を紹介したことで、地元紙などが積極的に紹介してくれた。それが来館者のインセンティブになったと思われる。(1.6.9) 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日記入				
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	・前橋ゆかりの作家について重点的に調査・展覧した記録を残したい。今後は個展形式のコレクション展をシリーズ化して、それらのリーフレットの制作に結び付けたい				
引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見	館長 副館長	地域ゆかりの文化施設(広瀬川美術館)を継続的に調査した成果を反映させ、作家の日記をもとに展示を構成できたのはよかった。また、女性作家として重要な活躍をしてきた高畑早苗の寄贈作品へ注目が集まった点も大きな意義があった。				
	運営 評議会					

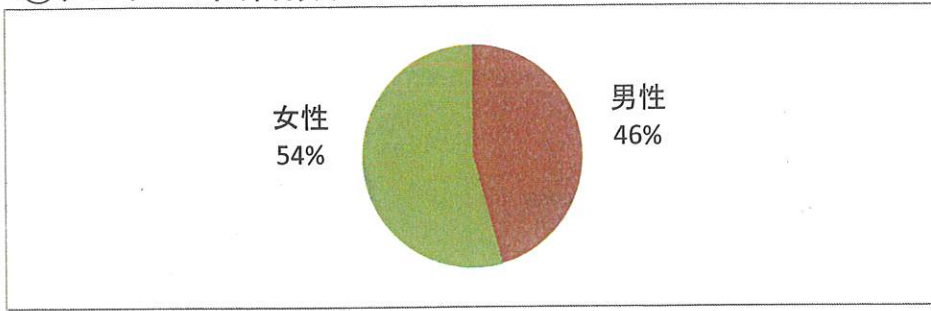
平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s—2010s											
	会期	平成31年2月2日(土)～平成31年3月24日(日)						開館日数	44 日間				
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 地下ギャラリー						実施方式	01自主企画・単独方式				
	観覧料	一般	500 円					出品点数	427 点				
		割引	300 円										
	担当者	学芸:五十嵐 純 事務:高山 あずさ											
	目的	福岡アジア美術館との連携をもとに、版画表現を通じたアジアの交流史を見ることで、商品化・スペクタクル化する今日のアジア美術とは異なる、アジア美術の潜在力を探求する。											
	キーワード	木版画 アジア美術 社会運動											
	他団体との連携 (共催、協力等)	読売新聞社、美術館連絡協議会											
		福岡アジア美術館											
身体芸術推進実行委員会(連携イベント)													
参加・出展作家	イルワン・アーメット&ティタ・サリナ	ホン・ソンダム			ケーテ・コルヴィッツ			小口一郎					
	タリン・パディ	チッタプロサド			小野忠重			ほか					
関連イベント	2/2 オープニングトーク「アジア近代美術の伏流—抵抗と解放の木版画運動」 黒田雷児												
	3/16トーク「転換期の文化と運動:戦後初期の版画」 ジャスティン・ジェスティ												
	2/9,3/10 学芸員によるギャラリーツアー												
	3/9 ロビーライブvol19 沖縄民謡&サーフ												
	2/9-2/22 前橋シネマハウス映画上映 タクシー運転手 約束は海を越えて												
	2/23-3/8 前橋シネマハウス映画上映 1987、ある闘いの真実												
2/11-3/21 前橋身体論 早春ゼミナール2019													
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	出品目録	図録						
		1,000 部	40,000 部			4,000 部	400 部						
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	助成金	図録					
		予算	450,000 円	10,845,000 円	4.1%	3,615 円	450,000 円						
		決算見込	658,200 円	10,687,492 円	6.2%	3,054 円	658,200 円		691,200 円				
		差額	208,200 円	-157,508 円	2.0%	-	208,200 円		691,200 円				
予算/決算	146.3%	98.5%	148.4%	84.5%	146.3%								
②内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要(転記)	福岡アジア美術館との連携をもとに、版画表現を通じたアジアの交流史を見ることで、商品化・スペクタクル化する今日のアジア美術とは異なる、アジア美術の潜在力を探求する。										
		【②活動】 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	広報戦略 ・新たな試み(転記)	1.巡回の展覧会に加え、アーツ前橋独自の企画展示を追加する 2.地域の外国人コミュニティの呼び込み 3.先行する他館の情報を利用し、告知を充実させる									
	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・NHK首都圏ニュース(3月16日) ・芸術新潮(3月25日) ・タブロイド判のチラシを増刷した。											
	● 指標	新たな試みの実績	・市内日本語学校(告示校・6校)の無料入場対応。各校訪問。団体見学(1校・50名)										
③結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		1,257	78	560	30	251	717	166	133	106	202	3,500	80
		有料観覧者率 59.7%	36%	2%	16%	1%	7%	20%	5%	4%	3%		

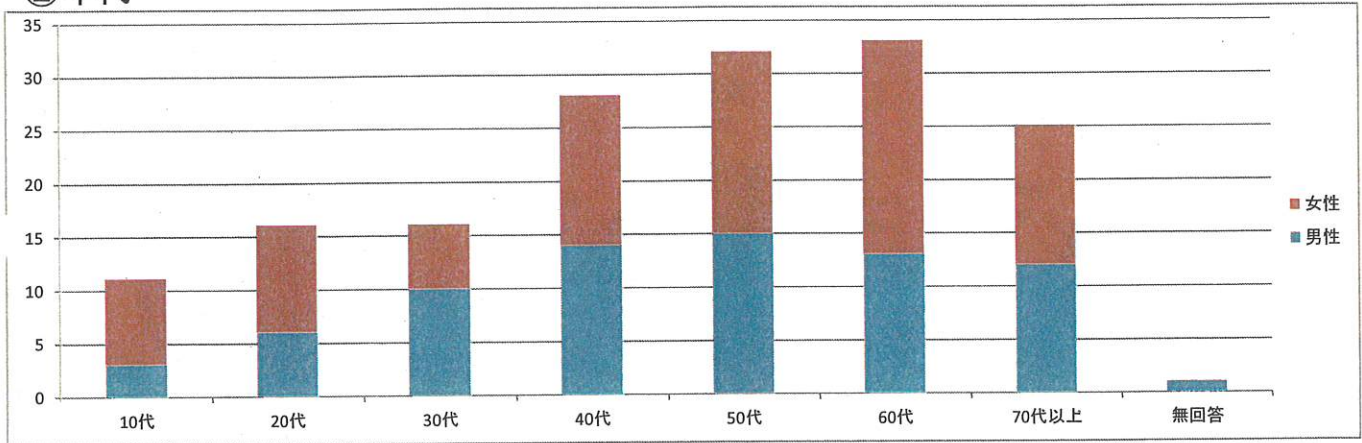
平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名		闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s—2010s					
③ 結果	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項	
			入場・参加者数	3,000 人	3,500 人	116.7 %	トーク実績含む
			展覧会満足度	80 %	91.0 %	11.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)
④ 成果	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった					
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	関東近郊、近隣の外国人				
		成果	関東近郊に限らず、県外からの観覧者は想定以上の成果を得られた。アーツ前橋会場開催前の福岡アジア美術館での評判の影響が大きく、福岡会場での展示を見逃したという方も多く来場した。バイリンガル表記や近隣の日本語学校への広報も行ったが、外国人の来場者割合が増えたとは言えない。引き続き、市内・県内在住の外国人への広報努力が必要である。				
		ねらい1 (転記)	アジア美術と版画の紹介により新たな客層の獲得				
		成果	社会運動とともにあった木版画という視点において、アンケート等でも好意的な評価をいただいた。また北関東版画運動における作品の展示を行ったことで、多くの関心を集め、関係者らの来場、またそれらの方からの広報支援もあり、関東周辺の新規の客層の獲得につながるものであると考えられる。				
		ねらい2 (転記)					
⑤ 波及効果	個別評価	※概ね1年経過後に再確認して修正(記入日を()内に記載) <1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 現時点で記入すべき点があれば「後日記入」 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. 事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒芸術新潮に記事(成相肇氏による連載)が掲載された。 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒出品作家のホン・ソングム氏の来館があり、地域の作家らとの交流が生まれた。作品集荷にあたり、関東の版画を収集している館や遺族らとの情報・意見交換を行うことができ、収蔵候補作品の調査へとつながった。 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒外部団体(身体の芸術推進実行委員会)による主体的な企画が生まれ、展覧会理解につながった。(1.6.7) 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒後日記入					
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る		
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る		
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る		
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る		
	課題・改善点	福岡アジア美術館、美術館連絡協議会との共催で開催となる本展は、企画・作品選定が福岡会場が主軸となり、また専門性の高いアジアの作品紹介となったため、作品の理解に時間を要した。また膨大な数の展示物があったため、福岡アジア美術館の担当学芸員の協力がなくては展示・撤収作業が難しい状況であった。巡回展であるため、作業の効率化は見られたが、同時に企画段階での共同が必要であったと考える。 解説が読みにくいという意見や、熱量が伝わる一方で、量が多く疲れるといった意見もあり、福岡会場での反応をもとに当館での展示に工夫が必要であった。また、会期中での図録の売り切れは想定していなかった喜ばしい結果となったが、増刷や簡易版の作成なども検討の必要であった。多言語化には予算面でも大きな壁があるが、近年、当館の置かれる地域でも急激に増加しているアジア諸国の留学生や外国人に強くなり一歩することができなかつたことは、課題として残る。					
引継ぎ事項 (特記事項)							
コメント・意見		館長 副館長	アジアの各地の重要な歴史的転換期を背景に、鑑賞や展示を前提としない表現活動から生まれた作品が集まる重要な展覧会になった。アジアの美術の調査について、あるいは当館で実践してきた地域共同体と協働する美術の活動において、今後の活動を考えていくための糧を得られた。				
コメント・意見		運営 評議会					

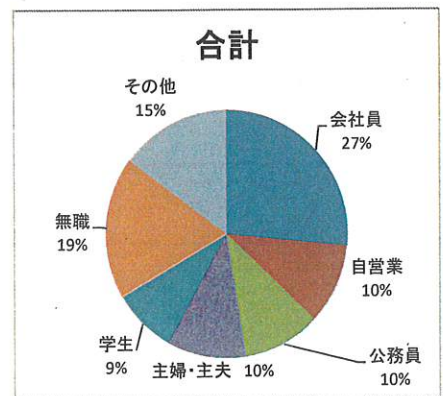
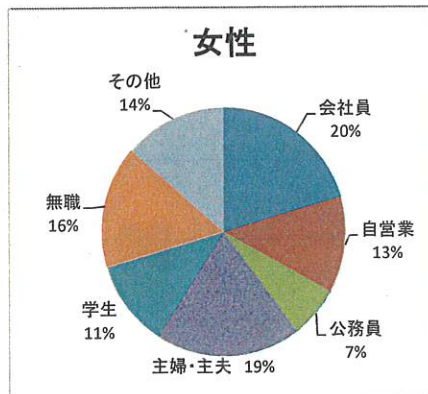
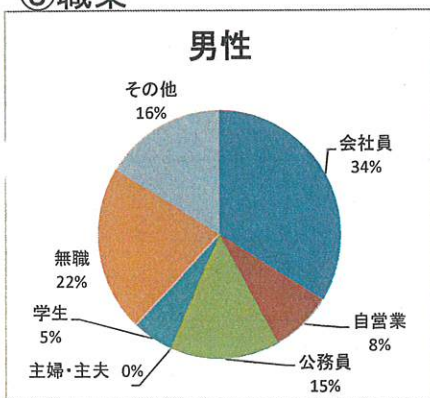
①アンケート回答数(162人)



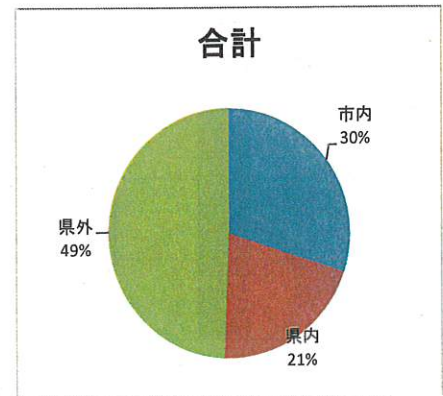
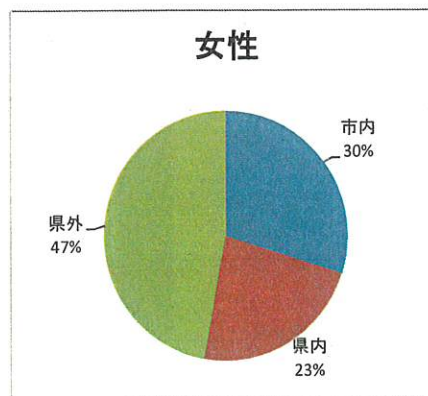
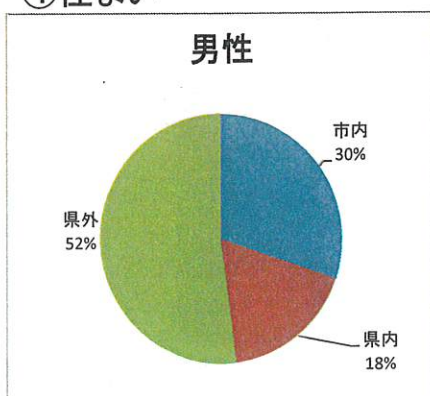
②年代



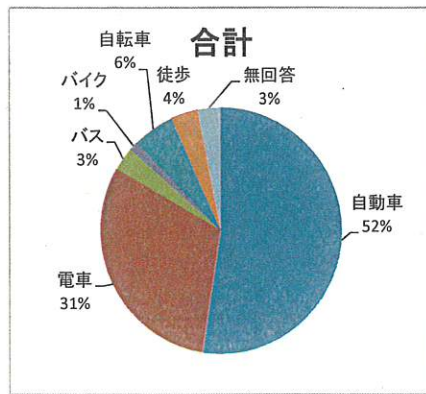
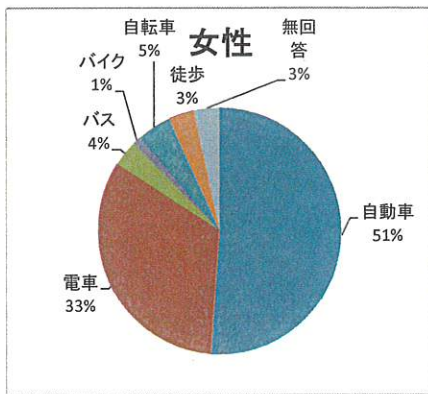
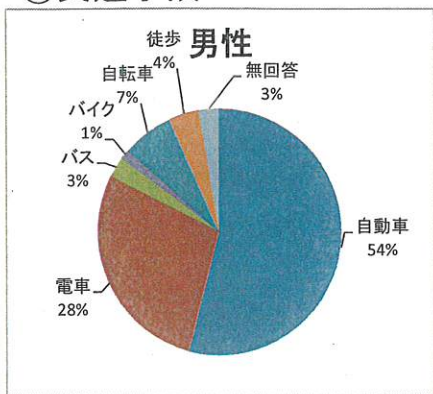
③職業



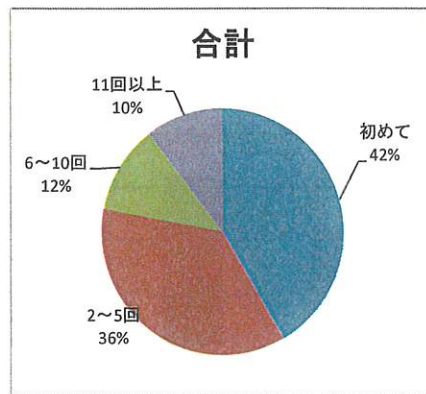
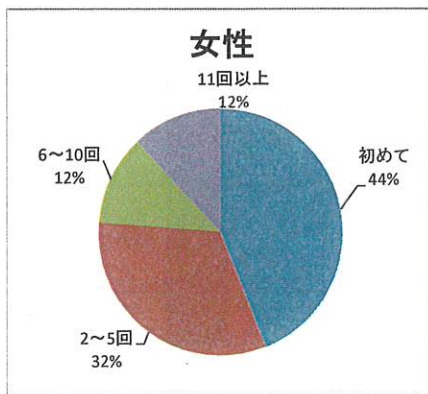
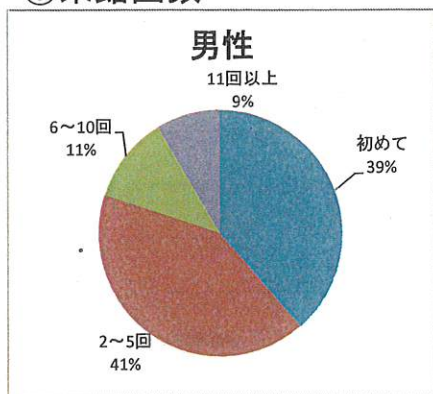
④住まい



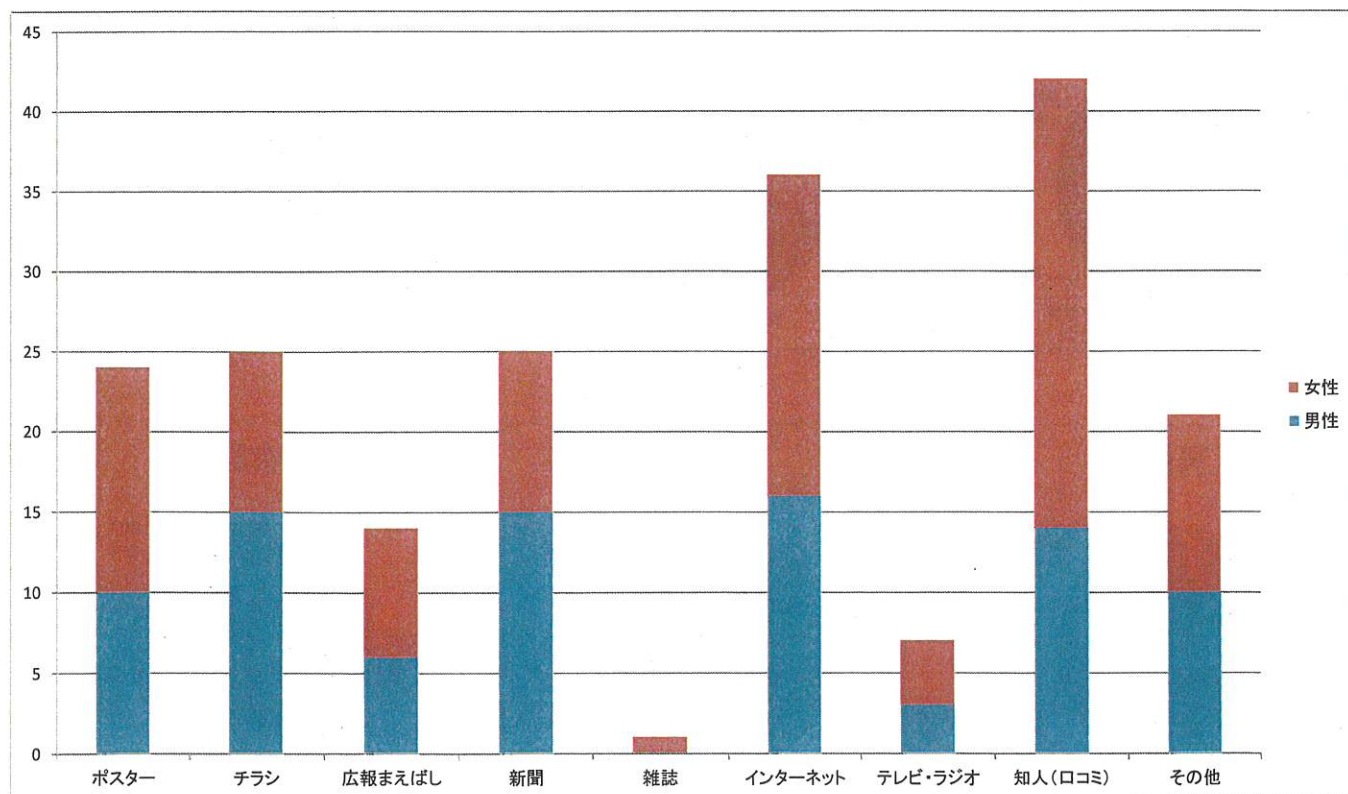
⑤交通手段



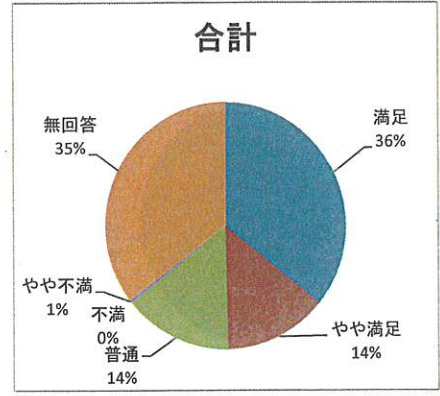
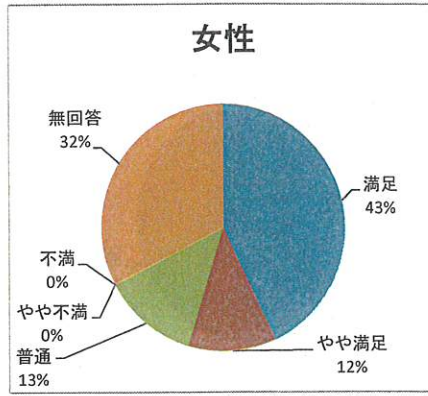
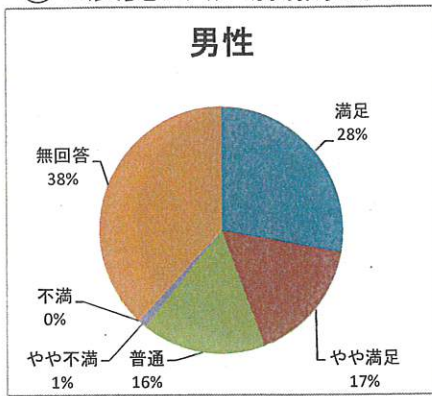
⑥来館回数



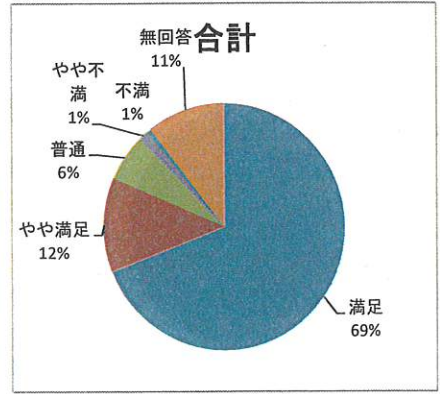
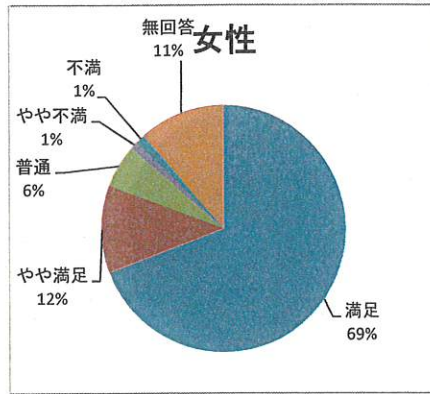
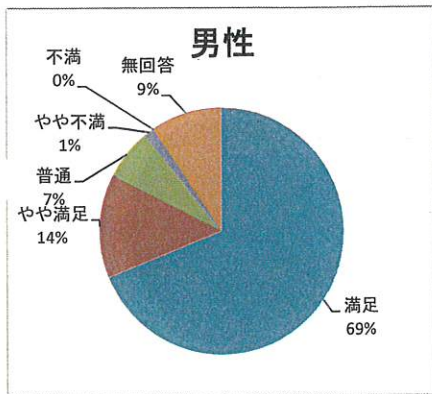
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



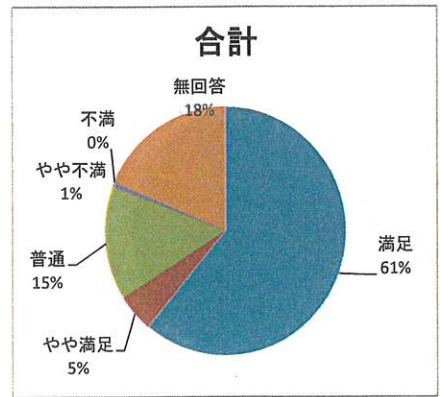
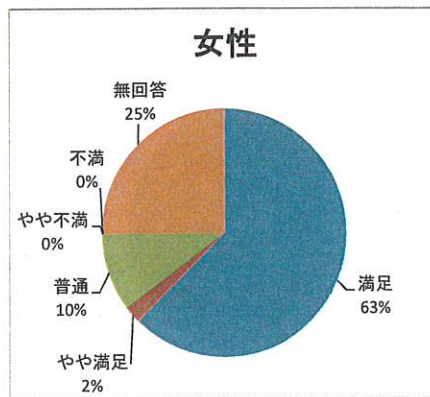
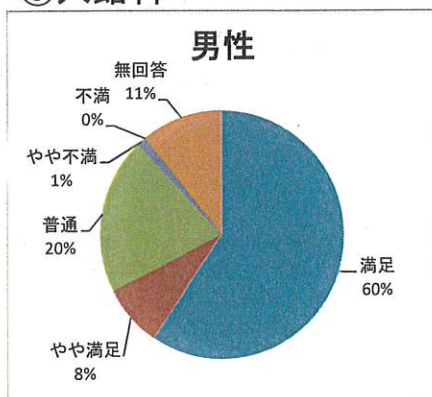
⑧-1 展覧会(近藤嘉男展)の内容



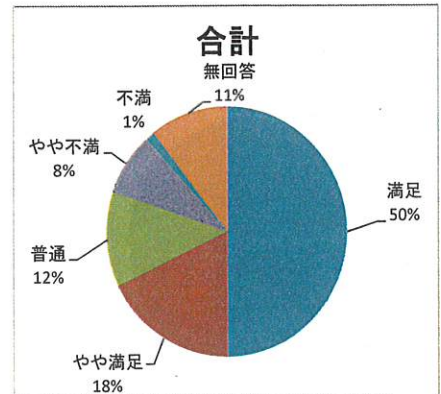
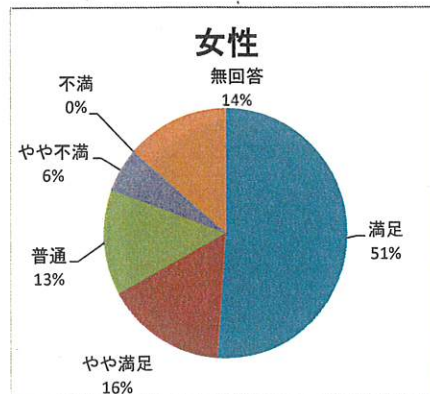
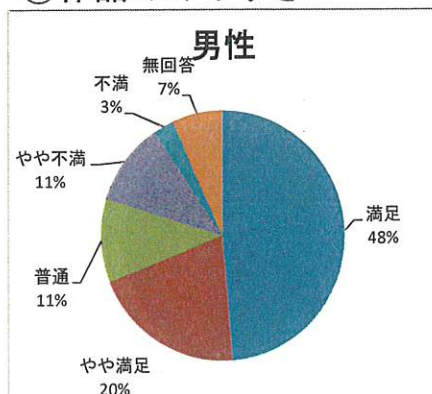
⑧-2 展覧会(闇に刻む光展)の内容



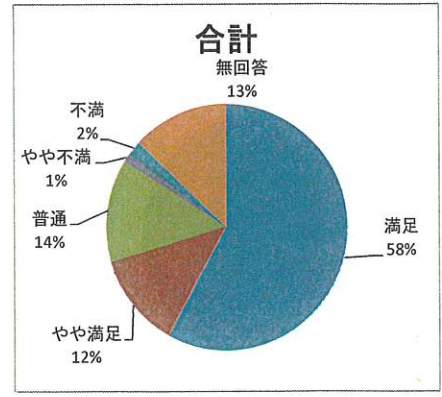
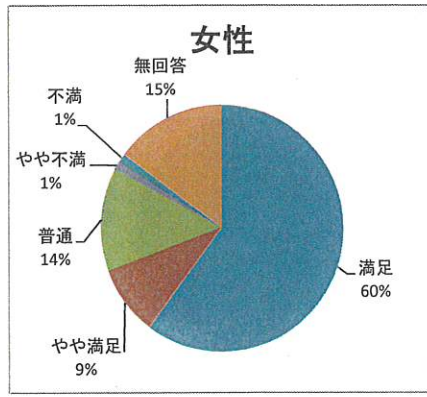
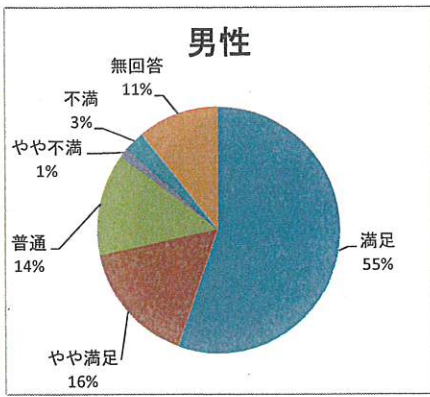
⑨ 入館料



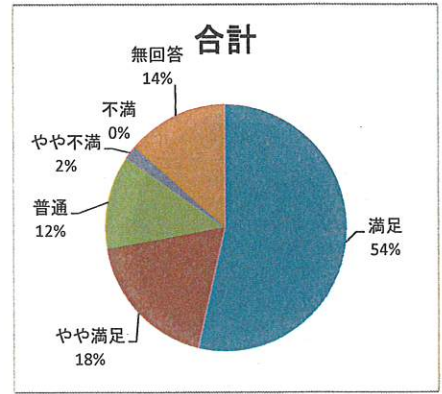
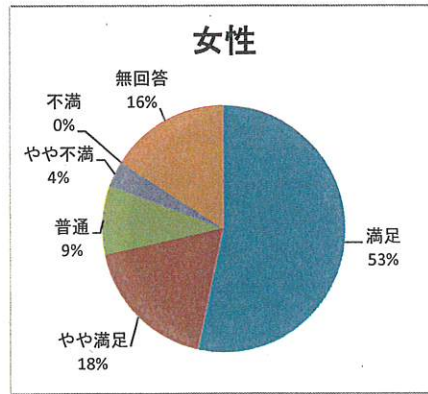
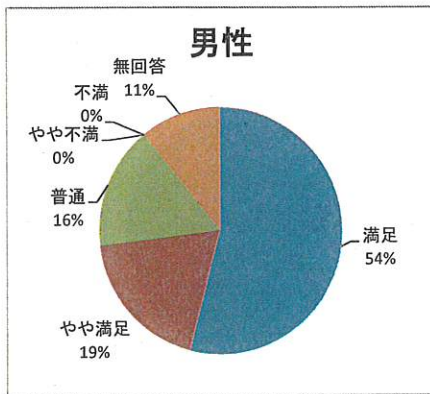
⑩ 作品のみやすさ



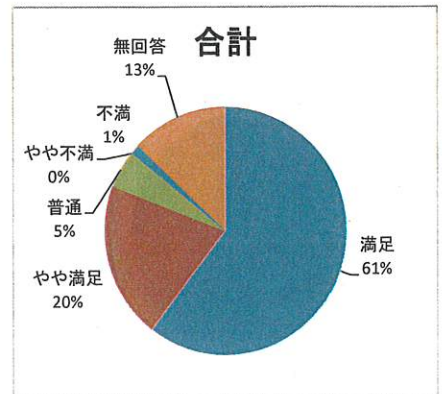
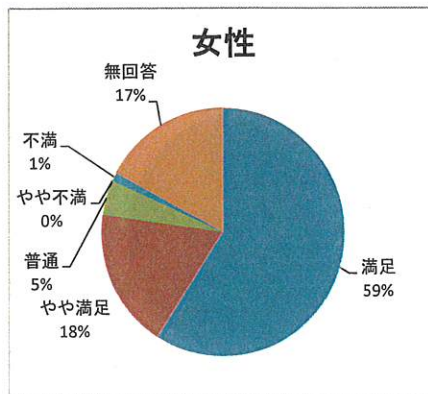
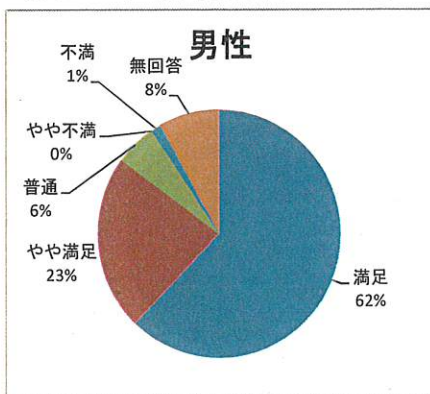
⑪ スタッフの対応



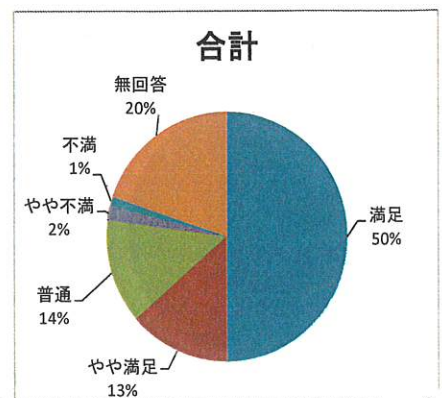
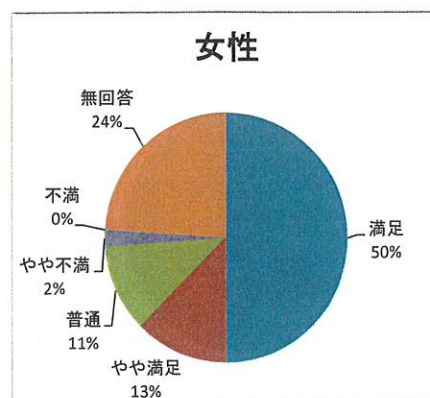
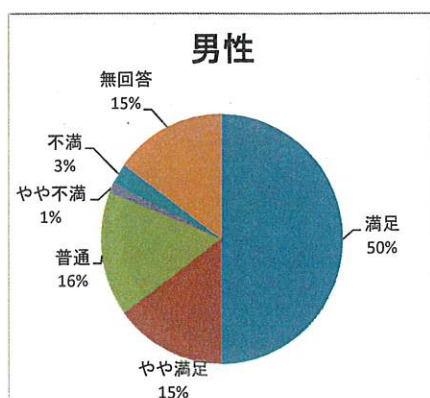
⑫ 施設の利用のしやすさ



⑬ アーツ前橋全体の印象



⑭ アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(近藤嘉男展)

- ・ラボヌがなつかしく、近藤先生が放ろうしていたことはびっくりしました(女性・60代)
- ・旅の記録と共に絵画が観れて面白かった。(女性・30代)
- ・画風の変化がよく分かり楽しめました(男性・40代)
- ・高畑早苗さんの作品が素晴しかった。是非、展覧会をして欲しい もっと沢山の作品が観たいです。(女性・50代)

(闇に刻む光展)

- ・ケーテ、小口、小野氏等々は知っていましたが、アジアの多数の木版にここまで集めた展覧会におどろきました！！(女性・70代)
- ・田中正造の足尾銅山鉱毒事件の展示がいちばん印象にのこりました。民衆の怒り、悲しみが伝わってくる展示が多かったのですが版画には希望や意志を伝える力もあると知りました(女性・40代)
- ・木版画というモノクロの世界から訴えられるインパクトある印象がカラー作品よりも強く心に残った。アートを通じての心の訴えが単純明快で分かりやすい。(女性・60代)
- ・期待していたのは韓国やインドネシアの作品だったが日本中国の作品と版画と社会のつながりがとても興味深かった。関係する本なども読んでみたいと思いました。福岡まで行こうかと思ったものの、都合がつかず残念に思っていたので近場でもこの展覧会があつてうれしかったです。ありがとうございます。(女性・50代)
- ・社会性を持つ美術という点現代に必要な意味のある展示でした。記録本の版画が鮮明でなく、小さくて残念。説明より作品にもっと焦点を当てて頂きたかった。版画好きといたしましては。(女性・50代)
- ・ティナ・サリナ、イルワンアーメットの作品がよかった。前橋に滞在していたことがわかり、もっと前に知っていれば！！「アトランティスの産物」の続きはぜひ見たいものです。(女性・40代)

- ・ホン・ソングムの光州五月 全点展示を観るためのきました。生で観れました！全体としても観ごたえのある展覧会でした。満足です。(男性・60代)
- ・よくこれだけの作品が残っていたものと感心します。今の個々人がバラバラにされ連帯することが非されるが如きの時代によく開催されたと大変うれしく思います。まだまだ光はある！そう思いました。(男性・60代)
- ・とても意欲的な展覧会であり、内容的にも充実していたが、作品数が多く展示解説の字も細かいので、とてもつかれた。もう少し工夫していただければと思う。アジアを中心とした、民衆美術運動の全体像の解明には、美術(史)芸術論による研究だけではなく社会思想や地域研究(歴史)など、さまざまな領域の専門的な人たちによる共同研究が必要なのではと感じた。(男性・50代)
- ・小口一郎「野に叫ぶ人々」— アーツ前橋で本展覧会を行う意義と結び付いた作品だから(作品の大きさにしても感嘆) 北関東で本展示を行う意義を3のコーナーで述べている こういう文化が北関東にあったことに気づかされる。(男性・40代)